

平成 28 年 2 月 15 日

総 務 大 臣 殿

三重県鈴鹿市住吉町 8947
株式会社 鈴鹿メディアパーク
代表取締役社長 加藤 正彦

番組審議機関関連について（報告）

下記の○印の事項について、放送法施行令第 7 条第 3 号イの規定により、別紙の書類を添えて提出します。

記

- 1 番組審議機関の名称変更
 - ・変更内容の新旧対比表
- 2 審議機関の組織及び運営に関する規程の変更
 - ・変更内容の新旧対比表
 - ・変更後の現状
- 3 審議機関の委員の変更
様式 6-1 のとおり。
- ④ 審議機関の会議の議事録
様式 6-2 のとおり。

第 35 回 Suzuka Voice FM 番組審議会 議事録

審議会開催日時 平成 28 年 2 月 5 日 (金) 16 時 00 分～17 時 00 分

開催場所 Suzuka Voice FM 会議室

事務局：益川英明 (Suzuka Voice FM)

出席者：(敬称略) 山崎昭 亀井秀樹 玉川登美男 加藤二三子 西山哲也

欠席者：(敬称略) 市野聖治 長橋祐子

放送事業者側出席者：加藤正彦 益川英明

委員長：山崎昭

委員総数 7 名

出席委員数：5 名

■番組名 「Sunset VOX」 水曜日

パーソナリティ：須賀梢

毎週水曜日 16:00～18:00 内の 1 時間程度

※水曜日独自コーナー「鈴鹿サブカル研究所」を含む、1 時間

アニメ・漫画など日本のサブカルチャーについて研究するコーナー

～番組内容を音源で検聴～

事務局：よろしく申し上げます。

委員長：パーソナリティ採用して、7 か月の方の番組を聴いて頂きたいと思います。

委員：気になったのが、漫画、コミックを知らない世代にはマニアック過ぎて、一般受けするのかどうか心配。

委員：コーナーとは関係ないが、ゴミ収集情報の時のイントネーションが気になる。地元の方じゃないのかな？

事務局：鈴鹿には住んでいますが、年齢的なこともあるかも知れないですね。気を付けます。

委員：内容は盛り沢山、市民情報がかなり入っている。

委員：やはり、どの年齢層にスポットを当てていくかを考えた方が良いでしょう。

委員長：リクエストとかを聴いていると、それほど若い層でもない気がする。

委員：番組の中で、病気療養中の方からメールが来ていた。

ラジオを頼りにしている人、楽しみにしている人にどう応えていくか？

委員：パーソナリティの語りかけは良かった。

委員：コーナーに限定すると、内容がよく分からなかった。

委員長：ただ、それが個性なのかも？

相反するかも知れないが、他のパーソナリティの放送を聴いていても、あまり個性を感じない。

パーソナリティそれぞれ得意の分野というか、もっと個性があっても良いと思う。

委員：コミュニティ FM では、市民参加の議論が出ると思うが、高校生の放送部に協力してもらって、一つのコーナーを持ってもらうのも有りなのでは？

委員：知り合いに聴いてもらう一つのキッカケにもなる。

委員：地元の話題が中継に入っているところは良かった。

委員：もっと番組スポンサーを上手に巻きこむのも必要。

鈴鹿には、こんなイベントがあるというアピールにもつながる。

委員：地元のイベントが放送されるのは、身近に感じて良い。

委員：さっき、高校の放送部の話が出たが、演劇部も良いのでは？

全国大会に出場している高校もある。

委員：上手く番組に参加してもらおうと、子どもたちとのつながりも出来る。

委員長：中学校にも放送部ありますよね。ここにも職場体験に来て、生放送に出た。

給食時間に流して聴いていたのでは？

委員：きっと、番組に出てみたいと思っている生徒も多いと思う。

自分を試してみたいとか、機会が欲しいですね。

委員長：その子たちが番組で出れば、家族が聴いてくれる。

上手く番組作りに活かして欲しいですね。

事務局：貴重なご意見ありがとうございました。

以上